発行所　東京都防衛協会
〒162-0844
東京都新宿区市谷八幡町１３番地
東京洋服会館９階
TEL:03-6280-8427
FAX:03-6280-8427
e-mail:info@tda.tokyo
HP:www.tda.tokyo

東京都防衛協会会報

第１８号〈令和2年（２０２０年）１０月1日〉

○東京都防衛協会は、区市町村の民間の有志で構成されている地区協会を中心に、昭和41年３月に結成された任意の団体です。
○「自分の国は自分で守る」の気概をもって、広く都民の間に防衛意識の普及高揚を図るとともに自衛隊を激励支援してその充実発展に寄与するような広範な活動を続けています。

新型コロナと戦う自衛隊中央病院

クルーズ船対応

病院は、１月初旬の中国での原因不明肺炎の報道から情報収集を開始し、１月27日以降は、武漢からの帰国者受入れを想定した準備を開始しました。政府チャーター機内での検疫支援看護官を派遣するとともに、東京都からの要請で同機に搭乗していた有症患者５名を受入れました。

チャーター便での帰国者に対し問診する看護官

次に、乗員・乗客３７１１人のクルーズ船で患者が発生したため、１月31日～３月16日の間、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る災害派遣活動」としての対応しました。

病室へ入室するクルーズ船の乗客

この期間中に受入れた陽性患者は、クルーズ船関係１０９名を含め１２８名であり、16の国と地域の外国籍の患者67名が含まれていました。これにあわせ、当院でも入院患者のＰＣＲ検査が出来る態勢を整備し約５００件の検査を実施しました。

患者増加に伴い段階的に感染症病床を拡張して受け入れる構想でしたが、実際の患者増加は、見積もりを上回るものでした。収容基準を１室１名から１室数名へ変更し、１００名を超える患者を受入れました。

また、院内感染防止においては、一般患者や職員の動線と感染症患者の動線を可能な限り区別するとともに感染症患者対応要員も専従化しました。個人防護及び病院施設の特性に応じたゾーニングも徹底しました。

更に、全国の自衛隊病院や部隊から医官、看護官、通訳等支援を受けることができ、このおかげで任務を遂行することができました。

市中感染対応

東京都は感染者の急激な増加に伴い、感染症指定医療機関に、重篤・重症患者用病床を5床、中等症患者用病床を40床確保するように要請しました。当院は都の要請に基づき、中等症以上の患者受入れ態勢を整備しました。市中感染期には、各地で患者が発生していたため、全国の自衛隊病院からの支援を受ける事が出来ず、当院の隊力のみで運営しました。

自動ファン付呼吸用防護衣を着用し重症患者を処置

当初、人工呼吸器管理が必要な重症患者は１～２名でしたが、４人に増え、それが続く状態になりました。精神科医官や心理職隊員でメンタルサポートチームを編成し、病棟等活動現場への巡回、メンタルヘルス教育、全職員に対するメンタルヘルスチェック等を実施する等、職員に対するメンタルヘルスケアを行いました。

ナースステーションでの勤務風景

今後の対応

今回の対応から、院内感染防止・医療事故防止は、直接的には、平素の取組み（教育・訓練、マインドの醸成）、各種会議等での徹底、現場確認・指導・徹底（担当者から病院長まで）が有効だったと考えています。間接的には、情報共有（各種会議等）、余裕を持った勤務態勢の確保と休養、必要な資器材の補給・整備、心身の健康管理が有効だったと考えています。

当院はクルーズ船からの１００名を超える患者を受入れる事により、感染症対処初期の医療崩壊を防止し、市中感染期においては、地域の患者を受入れる事で、地域医療に貢献出来たものと考えています。

（自衛隊中央病院総務課）

電子カルテを前に調整する医官

防衛サロン

「自ら国を守る」意識情勢の機運

東京都防衛協会特別会員
新宿区防衛協会副会長　大野高裕
（早稲田大学　理工学術院教授）

私が亀田宏司様のご紹介で東京都防衛協会に個人会員として入会させていただきましたのは、昨年度ですのでまだ新参者です。にもかかわらずこのコーナーに執筆させていただく機会を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。

少し前までの私は「自ら国を守る」ことは当然のことと考え、心の中では自衛隊の皆さまが国民を守ってくださっていることに、敬意と感謝の念を抱きつつも遅くない、自衛隊の皆さまを私たちが精神的支柱となってお支えさせていただくことが、日本にとって本当に必要なことだと痛感しています。

続けてきましたが、それを形で示すことができませんでした。戦後教育を受けた者たちにとって、国の防衛という話はタブーであり、顕著となった東アジアの情勢、米中の抜き差しならない対立を目の当たりにすると、「安全と水はタダ同然」という日本的な考えが、もはや成り立たないことは誰の眼にも明確になっています。今さら手のひら返しのように、自衛隊の皆さまを頼りにするというのは虫が良すぎますが、今からでも遅くない、自衛隊の皆さまを私たちが精神的支柱となってお支えさせていただくことが、日本にとって本当に必要なことだと痛感しています。

しかし、ここ数年で顕著となった東アジアの情勢、米中の抜き差しならない対立を目の当たりにすると、「安全と水はタダ同然」という日本的な考えが、もはや成り立たないことは誰の眼にも明確になっています。今さら手のひら返しのように、自衛隊の皆さまを頼りにするというのは虫が良すぎますが、今からでも遅くない、自衛隊の皆さまを私たちが精神的支柱となってお支えさせていただくことが、日本にとって本当に必要なことだと痛感しています。

防衛はアメリカの核の傘にお任せという感覚もはや成り立たないことは誰の眼にも明確になっています。今さら手のひら返しのように、自衛隊の皆さまを頼りにするというのは虫が良すぎますが、今からでも遅くない、自衛隊の皆さまを私たちが精神的支柱となってお支えさせていただくことが、日本にとって本当に必要なことだと痛感しています。

しかし、ここ数年で顕著となった東アジアの情勢、米中の抜き差しならない対立を目の当たりにすると、「安全と水はタダ同然」という日本的な考えが、もはや成り立たないことは誰の眼にも明確になっています。今さら手のひら返しのように、自衛隊の皆さまを頼りにするというのは虫が良すぎますが、今からでも遅くない、自衛隊の皆さまを私たちが精神的支柱となってお支えさせていただくことが、日本にとって本当に必要なことだと痛感しています。

最近ではこちらから話を持ち掛けなくとも、私の周りの40代以降の子供を持った人たちは、自分の方から国を自らが守ることの重要性を語るようになってきました。そして貴会のことを話しますと喜んで入会してくれます。昨今の世界情勢を見て、自分の子供たち世代はどうなってしまうのだろうという強い危惧から、誰しもが国防のことを真剣に自分事として考え始める時代が到来したのだと思います。そういう意味でこれからの防衛協会の役割は極めて重要なものになると考えます。私も身近なところから、自ら国を守る意識と行動を採る市井に眼っている仲間を見つけ出して、共に防衛協会での活動を広げていく思いを強くしていますので、どうかよろしくお願いいたします。

中央病院の沿革及び概要

【自衛隊中央病院の沿革】

自衛隊中央病院は昭和31年、防衛省職員の職域病院として開設され、平成5年に保健医療機関の指定を受け、地域の方々の診療も開始しました。平成22年から救急告示病院として一般救急患者の受入を開始、平成28年には二次救急医療機関として、平成29年に第一種感染症指定医療機関として東京都の指定を受けています。

【自衛隊中央病院の概要】

29の診療科及び５００病床を保有し、陸海空自衛隊の最終後送病院として診療及び職員の教育訓練等を実施しています。病院本館には、免震機能、大型ヘリコプターが発着可能な屋上ヘリポート及び陰圧機能を有する感染症専用病室を保有しています。有事、大規模災害の際は、病床数を拡張することもできます。また、通常診療の他、災害及び感染症等の様々な事態に備え「大量傷者受入訓練」及び「感染症患者受入訓練」を毎年実施し、対応能力の向上を図っています。

東京地本長交代

（令和２年８月25日付）

離任本部長
陸将補　岸良知樹

中部方面総監部
幕僚副長（行政）へ
着任本部長
陸将補　牧野雄三

陸上幕僚監部監理部総務課広報室長から

協賛広告有難うございます！

隊員及び家族の皆様の
遺言アドバイザー
柴田 純一　行政書士（遺言・相続 専門）
遺言書がなく揉める相続。揉めたら全員が敗者です。勝者は一人もいません。あなたの遺言書があなたの家族を守ります。「遺言書」づくりをサポート致します。
遺言書は、あなたと家族の絆の証明書!!
秘密厳守
行政書士　柴田法務会計事務所
〒173-0035 東京都板橋区大谷口2-24-13　受付時間／10:00~18:00
TEL 03-6780-1408　FAX 03-6780-1409
E-mail/info@yuigonsyo.biz　http://www.yuigonsyo.biz/

明治記念館
婚礼・宴会のご用命をお待ち申し上げております
法人営業部　担当　武　本　　茂（陸OB　防大27期）
TEL：03-3746-7711　Mobile：080-2384-9560
E-mail：s.takemoto@meijikinenkan.gr.jp

相続・事業承継
対策と税務申告
税理士・事業承継士　秋田　耕治郎
「命の襷（たすき）」を繋ぐお手伝い
相続も事業承継も早めの準備が重要です。
私たちは、皆様の大切な想いと財産を未来へと繋ぐお手伝いをさせていただいています。
真心と感謝と祈りを込めて。
秋田會計事務所｜相続支援センター
千代田区水道橋相談室
〒101-0061　東京都千代田区三崎町3-2-16　三弘ビル3F
TEL 03-3263-3458　FAX 03-3263-3459
E-mail：akita@tkcnf.or.jp　URL：http://www.akita-kaikei.jp

私たちの誇り
躍動する自衛隊！

防衛大学校学生が部隊実習
知識・技能の向上を図る

第1師団は7月2日から25日の間、防衛大学校第3学年の学生に対し「令和2年度防衛大学校第3学年夏季定期訓練部隊実習」を実施し、幹部自衛官の地位・役割を理解させるとともに、部隊の実情を体験させ、陸上要員として必要な知識・技能の向上を図った。

防大生に講話する師団長

当初、訓話において師団長は、学生30人に対し「部隊実習は、初めての部隊経験の場であり部隊の実情、特に隊員の訓練・生活等、現場の真の姿を掴むこと、第1師団の幹部には、原点として部下を死なせないことを心根にすえて、その為に如何にあるべきかを考えよと指導しているので、その実態をよく見て欲しい」等述べた。

師団統制訓練として7月2日から3日にかけて、練馬駐屯地所在の第1後方支援連隊、第1通信大隊、第1偵察隊、第1特殊武器防護隊、第1音楽隊及び第1師団司令部付隊を研修した後、UH-1により立川駐屯地に移動して第1飛行隊を研修し、その後、朝霞駐屯地にて第1施設大隊を研修した。また24日には北富士駐屯地の第1特科隊、駒門駐屯地の第1戦車大隊及び第1高射特科大隊をそれぞれ研修した。

徒歩行進する防大生

部隊研修前段終了後の4日から23日の間、学生は各普通科連隊において小部隊の行動を理解する目的で連隊等実習を行い、徒歩行進、機関銃射撃、地図判読、分隊攻撃、野戦築城、各種火器の射撃研修、服務実習等を通じて、幹部自衛官としての自己修養の資を得たものと思料する。

2・3佐予備自衛官招集
識能・資質を養う

第1師団は7月31日から8月4日の間、朝霞駐屯地において幹部予備自衛官として職務を遂行するうえで必要な練度を維持するとともに、識能及び資質を養う目的で「令和2年度第1回2佐・3佐予備自衛官招集訓練」を実施した。招集訓練は第1師団司令部 第3部長を担任官とし、第32普通科連隊が招集訓練を担任して、東部方面管内の各地方協力本部に所属する2佐・3佐予備自衛官43名に対し、有事に直結した教育（精神教育、職務訓練、射撃訓練及び体育訓練）を実施し、実りある招集訓練となった。

図上戦術で指揮を執る予備自衛官

招集訓練に参加した家村2佐は「質の高い任務に直結した教育訓練により、職務遂行能力を向上するのみならず、有事や大規模災害時には、馳せ参じて陸上自衛隊の負託に応えなければならないとの自覚を高めることができた」と所感を述べた。

北富士で施設合同訓練
陣地構築の練度向上を図る

第1師団は7月31日から8月7日の間、北富士演習場において第1施設大隊長を担任官として、隷下部隊の陣地構築の練度及び指導能力の向上を図る目的で「令和2年度第2回師団施設合同訓練」を実施した。

1施大は訓練参加隊員を指導要員グループ45名に区分して座学及び実習を段階的に実施した。

12人用指揮所掩体構築中の施設科部隊

指導要員グループは12人用指揮所簡易掩蓋掩壕及び民生品（ソイルアーマー）を活用した車両用簡易掩蓋掩壕（野外通信システムAN車用）を構築し、掩体の防護性、機能性及び秘匿性のある掩蓋構築物の構築要領を修得した。小隊長グループは隊力及び器資材を効率的に運用する為の工程管理要領として工程表作成及び修正を実施した。実習後は各グループ毎に概成した掩体を研修して部隊の陣地防御に繋げる実りある合同訓練となった。

（第1師団広報班）

地本コーナー

決意も新たに出陣式

自衛隊東京地方協力本部（当時本部長 岸良陸将補）は7月8日、本部庁舎において令和2年度の「出陣式」を行った。

決意も新たに出陣式

出陣式は、例年、年度当初の4月に行っているが今年度は新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を受けて延期していた。

出陣式では、当初、昨年度の募集、援護、予備自衛官等業務の各目標を達成し無事に業務を遂行できたことに感謝しつつ、1年間、東京地本を見守ってくれたダルマの右目に本部長が目入れして開眼させた。引き続き、新たなダルマの左目に各地区隊長及び課室長・副本部長が順番に墨を入れていく中、各地区隊長は昨年度を上回る成果の獲得に向けてその決意を述べ、最後に本部長が左目の目入れを完成させて今年度の安全な業務遂行と目標達成を祈願した。

また、本部庁舎の屋上において出陣式参加者らが「TOKYO」の人文字を作って記念撮影し、コロナ禍においても一丸となって職務に邁進する決意を示した

都立高校教諭等に体験型防災教育

自衛隊東京地方協力本部は7月20日から22日の3日間、本部庁舎及び市ヶ谷駐屯地において東京都教職員研修センターが担当する「令和2年度東京都公立学校中堅教諭等資質向上研修Ⅰ」を支援した。

都立高校教諭らに体験型防災教育を紹介

研修には58名の都立学校教員及び国立大学付属学校教員が参加し、自衛隊の概要説明の他、号令に応じて動作する基本教練や自衛隊体操の体験、防災教育等が実施された。

防災教育は『学校で授業中に地震が発生！その時、あなたは？』や『友達と下校中に地震が発生！その時、あなたは？』など地震発生時に取るべき行動についての選択クイズと地震発生時に自身を守るポーズや止血法、家庭にある物を活用した寝袋の作製等、参加者の実習を主体とし学校での防災教育にも反映できる内容で行った。

コロナ対策取りながら募集イベント再開

自衛隊東京地方協力本部新小岩募集案内所（所長 高倉2陸尉）は7月3日及び12日、葛飾区内の商業施設等において、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言解除後初となる募集広報イベントを実施した。イベントの実施に当たっては手指用消毒液の設置や隊員はマスク、フェイスシールドを装着する等感染防止対策を取りつつ開催した。

コロナ対策とりながら募集イベントを再開

JR亀有駅南口に隣接する「アリオ亀有」では、装備品や自衛隊の活動を紹介する写真パネルの周辺にテープで統制線を標示し、密集状態にならずに見学できる環境を作った。また、JR亀有駅の南東に位置する「アリオ亀有」では、海上自衛官が来場者と一緒に手旗信号を体験し、「ソーシャルディスタンス」を意識することができるよう展示内容を工夫した。会場には、東京都防衛協会、葛飾区自衛隊家族会等も応援に駆けつけ、今年度初の広報イベントは大勢の来場者で賑わった。

（東京地方協力本部）

アクセスはこちらから

第1師団
師団 FB
師団 Twitter
東京地方協力本部
地本 Twitter

活動最前線！
地区防衛協会コーナー

杉並区

杉並区防衛協会は昭和63年の創立から32年目を迎えました。そして4月から新年度として新たなスタートを歩み始めた途端、状況は大きく変化してしまいました。新型コロナウィルス（COVID-19）の蔓延です。

東部方面隊や各駐屯地より、全ての行事とイベントの中止の連絡があり、自衛隊の応援団としての取り組みが、全く出来なくなりました。現在も何も出来ない状況が続いており、早く収束することを祈っています。杉並区の会員諸兄は経験豊富な方が多いのですが、逆に高年齢のリスクがあり、現在はステイホームとなっています。

ただ、会員も日本を取り巻く世界情勢を心配し、日本の将来を深く思慮しています。強大になった中国と、それに対する米国が歴史を大きく変えようとしている状況で、75年間続いた専守防衛が大きく変化しつつあります。

青梅市

青梅駅の背後には四季折々の変容を見せる山々があります。つまり関東平野がここで終わり、多摩の山地へと連なっていくのです。青梅の人々は昔からこの自然を愛し、伝統と文化をはぐくんできました。

ここ数年、日本各地に地震・風水害等の災害が多数発生しており、現地での自衛隊の救難支援活動は皆様ご承知の通りです。戦没学生遺稿集に『はるかなる山河に』と題された1冊がありますが、美しい山河を守る自衛隊に対する感謝の念は、おのずと沸き起こってくるものと思われます。青梅市防衛協会の設立は昭和39年、自衛隊の災害派遣が大きく報じられた三八豪雪の翌年です。

青梅駅周辺の景色

当協会の主な活動は、観閲式・富士火力総合演習・東立川駐屯地納涼祭などの自衛隊主要行事には毎年バスを連ねて参加し、総会で自衛隊関係者の講演を催す等であり、非常に活発に活動しています。また、近隣市町村防衛協会とも連絡を取り合い、相互扶助に努めています。

今年度は誌上総会となりましたが、会則の「この会は、・・・、自衛隊に協力しその健全な発展に寄与」するとの目的を再確認しました。当協会も募集活動には特に力を入れており、市内より毎年多くの入隊者や防大進学者を数えるとともに春には入隊者激励会を開催しています。

当協会の特徴の一つに下部組織の充実が挙げられます。青梅市は、近隣7町村が昭和27年最終統合され、現在の市制となりました。これら7地区は行政サービスの拠点を成すとともに、当協会の地区支部を構成しています。地区支部は、慰霊祭や独自の催しによって地域に根差した活動をしています。一般会員と事務局との連絡も地区支部を通してスムーズに行われています。

お陰様で、市内の多くの企業等に特別会員として加盟していただいており、行政や議会、その他の組織とも良好な関係を築いています。当協会は、今後とも自衛隊と市民の橋渡し役となるべく活動していく所存です。

事務局長　竹内由則

日野市

この度、都防衛協会事務局より会報10月号への活動報告投稿の依頼が有りましたが、大変困った事だと思いました。それは各地区協会に於いても同様だと思いますが、新型コロナウィルスの影響から、令和2年度は一切の活動等が行えず、総会も出来ていない状況でした。この為、例年同様の活動を実施しておりますので、その報告を致したいと思います。

先ず当協会としましては役員会、総会、講演会、総合防災訓練・産業祭・市賀詞交歓会等への参加、日野市議防衛議員総会への出席、女性部会・青年部会の総会出席と富士火力演習・ヘリコプター体験搭乗・立川花火大会への参加等を進めております。また、立川・東立川・横田の各駐屯地等の行事には積極的に参加しています。近隣の防衛協会とも連携を保ち、総会・賀詞交歓会等にも出席しています。入隊についての管轄は八王子地域事務所となり、日野市・八王子市の協会、家族会・募連協等の6団体での協議、新年会・入隊激励会等実施しています。更に航空隊の安全を祈って、高幡不動尊にて安全祈願をし、ダルマ2つを寄贈し、目入れにも参加しています。

以上のような活動をもって当協会の報告といたします。

会長　土方尚功